

10 クロス集計結果

(1) 年代別のクロス集計

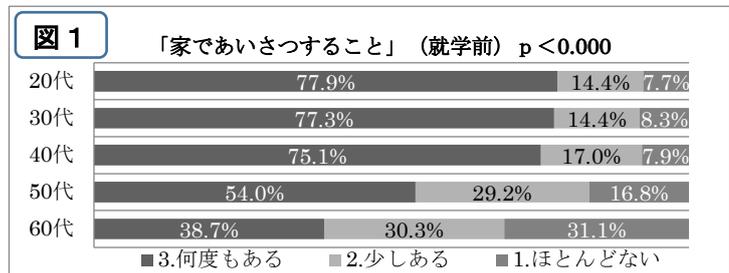
ここでは、回答者の年齢により、20代、30代、40代、50代、60代の年代別に各設問項目とのクロス集計を行った。なお、データ解析にはカイ二乗検定¹を用いている。

ア 子どもの頃の生活体験について

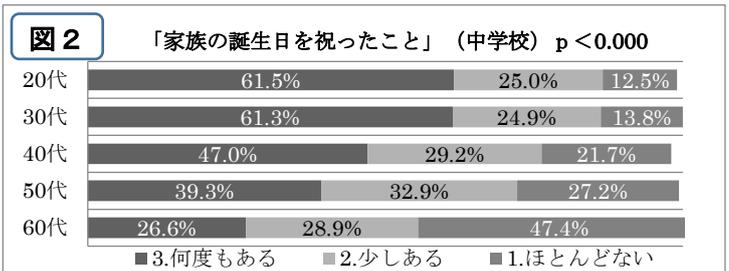
家庭の中であいさつをしたり、家族の誕生日を祝ったり、季節の行事を家族と一緒にしたりした経験は、若い年代ほど多い。

問1『子どもの頃（「小学校に通う前」から「高等学校」まで）、家庭で次のようなことをどのくらいしたことがあるか』（p2参照）を年代別にクロス集計した結果から、カイ二乗検定の結果、1%水準で有意だったものを見ると、家の中で「おはようございます」「いただきます」「いただきます」

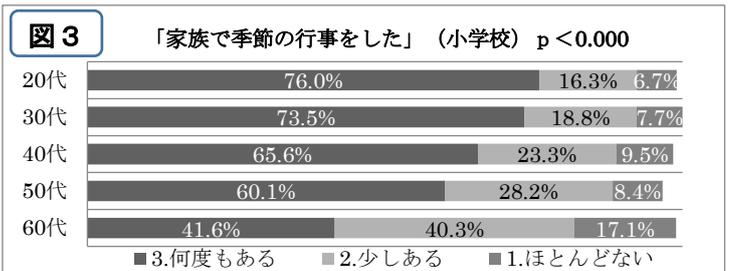
などあいさつをした経験（図1）について、就学前の頃に「何度もある」と回答した割合は、20代が77.9%に対し、60代は38.7%と39ポイントの差があった。年代が上がるにつれて「何度もある」と回答する割合が低くなる傾向が見られた。



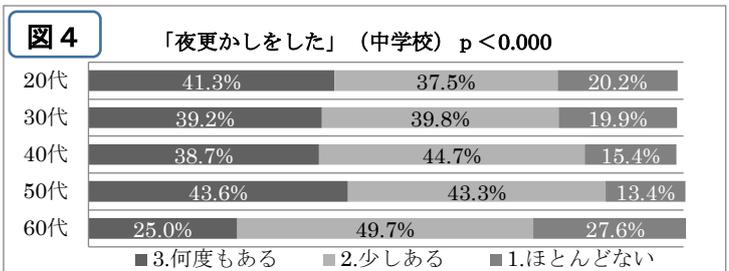
子どもの頃に家族の誕生日を祝ったことがある経験（図2）について、中学校の頃に「何度もある」と回答した割合は、20代が61.5%に対し60代では26.6%と34ポイントの差があった。60代では、「ほとんどない」と回答した割合が47.4%あり、およそ60代の2人に1人は家族の誕生日を祝った経験がないことがわかった。



子どもの頃に家族で季節の行事をしたことがある経験（図3）について、小学校の頃に「何度もある」と回答した割合は、20代が76.0%に対し60代では41.6%と34ポイントの差があった。



子どもの頃に夜更かしをした経験（図4）について、中学校の頃に「何度もある」と回答した割合は、20代が41.3%に対し、60代では25.0%と16ポイントの差があった。また、60代と50代を比較しても18ポイントの差があった。



¹ カイ二乗検定は、期待度数（期待値・理論値）を求め、その期待度数から観測度数（測定された値）がどの程度の割合でずれているか（観測度数と期待度数の差＝残差）を検定するものである。p値は有意確率を示し、p < 0.01の場合、判定結果が誤りである確率が1%であることを意味している。検定結果については、p < 0.001を「***」、p < 0.01を「**」、p < 0.05を「*」と表記している。

子どもの頃、家庭において洗濯やゴミ出し、買い物などの手伝いをしたり、朝自分で起きたりした経験は、年代が高くなるほど多くなる。

朝、人に起こされないで自分で起きた経験（図5）について、就学前の頃に「何度もある」と回答した割合は、20代が20.2%に対し、60代では35.3%と15ポイントの差があった。

また、家の中の掃除やゴミ出しをした経験（図6）について、高等学校の頃に「何度もある」と回答した割合は、20代が24.0%に対し、60代では43.9%と19ポイントの差があった。

洗濯の手伝いをした経験（図7）について、中学校の頃に「何度もある」と回答した割合は、20代が26.0%に対し、60代では44.5%と18ポイントの差があった。

子どもの頃の経験を年代別に比較すると、明らかな差があった。家庭での役割をもち、手伝いをしてきた経験は、年代が高くなるほど多くなることがわかった。

図5 「朝、自分で起きたこと」（就学前） p<0.000

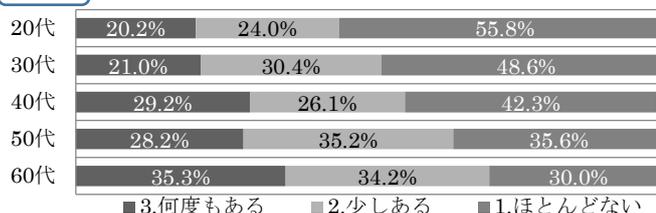


図6 「家の中の掃除やゴミ出し」（高等学校） p<0.004

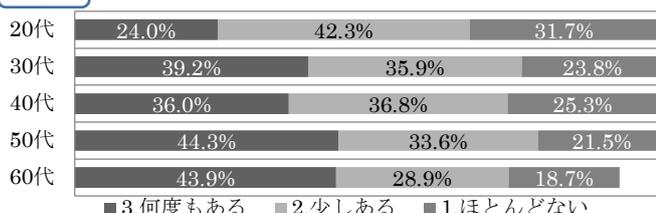
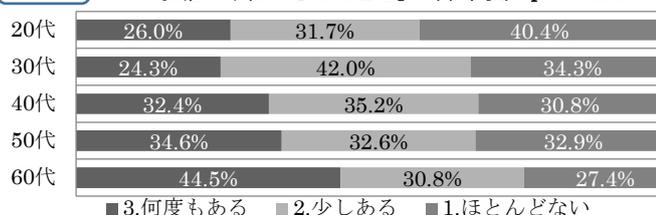


図7 「洗濯の手伝いをしたこと」（中学校） p<0.000



子どもの頃、放課後や休日に公園や広場で遊んだ経験は、60代が最も多い。逆に、室内遊びや一人で遊んだ経験は、年代が若くなるほど多くなる。

「小学生」から「高校生」の頃、放課後や休日に行った体験(p6参照)について、年代別にクロス集計した結果（表1）を見ると、『公園や広場で友だちと外遊びをしたこと』を中学生の頃に「ほぼ毎日した」と回答した割合は、20代が20.2%に対し、60代では31.1%と10ポイントの差があった。『友だちの家や自宅で友だちと室内遊びをしたこと』を中学生の頃に「ほぼ毎日した」と回答した割合は、20代で22.1%に対し、60代では8.7%と13ポイントの差があった。また、『一人でテレビを見たり、テレビゲームをして遊んだこと』を中学生の頃に「ほぼ毎日した」と回答した割合は、20代で44.2%に対し、60代では8.9%と35ポイントの差が見られ、年代が低くなるにつれて割合が高くなる傾向が見られた。なお、カイ二乗検定を行ったところ、すべての項目が1%水準で有意である。

表1 Q1-3「子どもの頃、放課後や休日に行った体験」（中学生の頃）

	n=104 n=181 n=253 n=298 n=380					検定結果
	20代	30代	40代	50代	60代	
(1) 公園や広場で友だちと外遊びをしたこと	20.2%	17.1%	13.8%	18.1%	31.1%	***
(2) 友だちの家や自宅で友だちと室内遊びをしたこと	22.1%	15.5%	10.7%	6.0%	8.7%	***
(3) 一人でテレビを見たり、テレビゲームをして遊んだこと	44.2%	31.5%	21.7%	16.8%	8.9%	***
(4) 学校外のスポーツクラブや少年団で活動したこと	25.0%	17.7%	10.7%	10.1%	8.9%	***
(5) 公民館、博物館、図書館、美術館に通ったこと	30.8%	32.0%	25.3%	27.9%	22.1%	**

注)カイ二乗検定結果(***:p<0.001, **:p<0.01, *:p<0.05)

『学校外のスポーツクラブや少年団で活動したこと』を中学生の頃に「ほぼ毎日した」と回答した割合は、20代が25.0%に対し、60代では8.9%と16ポイントの差があった。年代が低くなるにつれて、割合が高くなる傾向が見られた。

イ 「子どもの頃に感じたこと」について

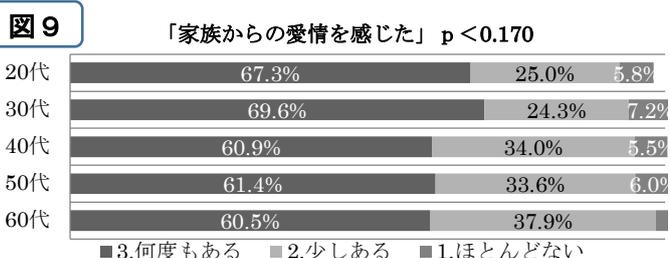
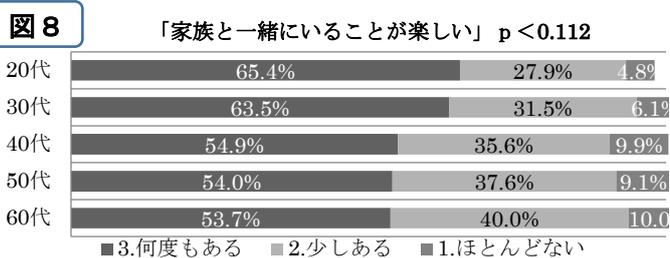
子どもの頃、家族と一緒にいることが楽しいと感じた経験は、年代が低くなるほど多くなる。子どもの頃、家族からの愛情を感じたことがある経験は、各年代に大きな差は見られない。

子どもの頃『家族と一緒にいることが楽しい』と感じたことがあるか尋ねたところ（図8）、「何度もある」と回答した割合は、20代が65.4%に対し、60代では53.7%と11ポイントの差があった。また、『家族からの愛情を感じたこと』（図9）では、「何度もある」と回答した割合は、20代が67.3%に対し、60代では60.5%で6ポイントの差があった。

60代は、これまでのクロス集計の結果を見ると、家族の一員として手伝いなどの役割を果たし、家族と一緒に旅行するなどの経験は少ないが、家族の愛情を感じながら育ってきたことが推察できる。

逆に、若い年代は、家族と一緒に遊んだり、季節の行事を共に過ごしたりする経験が多いことから、家族と一緒にいることが楽しいと感じる割合が高くなっていることが推察できる。

なお、カイ二乗検定の結果、どちらも有意ではない。



ウ 現在の人間関係と子どもの頃の人間関係について

地元で一緒に遊ぶ人や地元以外で一緒に遊ぶ人は、年代が高くなるほど少なくなる傾向にある。保護者や先生、友だちにほめられた経験は、若い年代ほど多い。

問2（p10参照）の現在の人間関係について年代別にクロス集計した結果（表2）を見ると、「個人的な悩みを話せる人」については、「いない」と回答した割合が、20代で13.5%に対し、60代では8.7%と5ポイントの差があった。カイ二乗検定の結果は1%水準で有意であった。また、「地元以外で一緒に遊ぶ人」については、「いない」と回答した割合が20代で28.8%に対し、60代では40.3%と11ポイントの差があった。カイ二乗検定の結果は1%水準で有意である。

表2 Q2「現在の人間関係について」（「5. いない」と回答した結果）

	n=104 n=181 n=253 n=298 n=380					検定結果
	20代	30代	40代	50代	60代	
(1) 困ったときに相談に乗ってくれる人	6.7%	5.0%	4.7%	6.0%	5.8%	*
(2) 個人的な悩みを話せる人	13.5%	9.9%	10.7%	10.1%	8.7%	***
(3) 同じ目標を目指して一緒に何かしている人	46.2%	40.3%	45.8%	46.6%	46.6%	
(4) 地元で一緒に遊ぶ人	15.4%	18.8%	26.1%	20.5%	25.3%	
(5) 地元以外で一緒に遊ぶ人	28.8%	27.1%	40.7%	37.9%	40.3%	**

注)カイ二乗検定結果(***:p<0.001, **:p<0.01, *:p<0.05)

子どもの頃、保護者や先生、友だち、近所の人との関係について、年代別にクロス集計した結果（表3）を見ると、『親にほめられたこと』では、20代が57.7%と最も高く、60代では35.5%と最も低く、22ポイントの差があった。また、『先生にほめられたこと』や『友だちにほめられたこと』についても、同様の傾向が見られ、若い年代ほど「何度もある」と回答した割合が高くなる傾向にある。『親に厳しく叱られたこと』や『先生に厳しく叱られたこと』、『友だちに注意されたこと』なども、ほめられた経験と同様、若い年代ほど「何度もある」と回答した割合が高くなる傾向にある。なお、カイ二乗検定の結果は、すべての項目において1%水準で有意である。

表 3 Q3「子どもの頃、保護者や先生、友だち、近所の人との関係」（「何度もある」と回答した結果）

	n=104 n=181 n=253 n=298 n=380					検定結果
	20代	30代	40代	50代	60代	
(1) 親にほめられたこと	57.7%	55.2%	44.7%	37.6%	35.5%	***
(2) 親に厳しく叱られたこと	57.7%	64.6%	60.9%	43.6%	34.7%	***
(3) 親に勉強をみてもらったこと	30.8%	28.7%	19.4%	14.1%	9.7%	***
(4) 親に読み聞かせをもらったこと	27.9%	30.9%	16.2%	10.1%	9.2%	***
(5) 親にやりたいことやほしいものを我慢されたこと	37.5%	42.5%	47.4%	38.3%	35.0%	**
(6) 親に社会のルールやマナーについてしつけられたこと	59.6%	62.4%	58.9%	43.6%	36.8%	***
(7) 親と人生や将来について話をしたこと	44.2%	37.6%	24.1%	18.8%	14.5%	***
(8) 先生にほめられたこと	42.3%	43.6%	36.8%	24.5%	21.3%	***
(9) 先生に厳しく叱られたこと	37.5%	45.3%	38.3%	24.5%	13.2%	***
(10) 先生に悩みを聞いてもらったり、相談に乗ってもらったこと	22.1%	20.4%	9.1%	5.4%	3.7%	***
(11) 友だちにほめられたこと	40.4%	46.4%	28.1%	24.2%	15.5%	***
(12) 友だちに注意されたこと	20.2%	23.8%	15.0%	8.7%	4.7%	***
(13) 友だちに悩みを聞いてもらったり、相談に乗ってもらったこと	36.5%	43.6%	37.9%	21.5%	12.6%	***
(14) 近所の人にほめられたこと	17.3%	26.5%	19.0%	14.8%	13.4%	**
(15) 近所の人に注意されたこと	6.7%	9.4%	8.3%	4.4%	3.2%	**
(16) 近所の人に遊んでもらったこと	13.5%	22.1%	20.2%	17.4%	23.2%	**
(17) 近所の人に教えてもらったこと	13.5%	18.8%	13.4%	12.4%	14.5%	***

注)カイ二乗検定結果(***:p<0.001, **:p<0.01, *:p<0.05)

(2) 郷土を愛する心の度合いとのクロス集計

問 9 (p23参照)において「あなたが生まれ育った場所や暮らしている場所など、あなたにとって思い入れのある地域」を「郷土」とし、どの程度「郷土を愛している」と感じているか、10段階で評価してもらった。本調査では、郷土を愛する心の度合いについて、子どもの頃の生活体験や人間関係、青森県に対する意識等との相関関係を見ることとした。そこで、郷土を愛する心の度合いが「8」, 「9」, 「10」の評価をした方々を「郷土を愛する心が強いグループ」(※表の中では「愛高」と表記)、「6」, 「7」の評価をした方々を「郷土を愛する心がやや強いグループ」(※表の中では「愛中」と表記)、「5」から「0」の評価をした方々を「郷土を愛する心が低いグループ」(※表の中では「愛低」と表記)と3つのグループにまとめ、各設問に対しクロス集計を行った。

ア 子どもの頃の生活体験について

郷土を愛する心の度合いが高い県民ほど、子どもの頃に家庭の中であいさつすることや買い物、料理、洗濯などの手伝いをしたこと、家族で季節の行事をしたことを多く経験している。

表 4 (次頁)は、子どもの頃の家庭での生活体験の中で「何度もある」と回答した結果を郷土を愛する心の度合い別グループでクロス集計した結果である。この表を見ると、郷土を愛する心の度合いが高い県民は、ほとんどの項目で「何度もある」と回答した割合が高くなっている。特に、(1)「家であいさつすること」では、高等学校の年代に「何度もある」と回答した割合を見ると、郷土を愛する心が強いグループ「愛高」が52.4%に対し、郷土を愛する心が低いグループ「愛低」では35.0%と17ポイントの差があった。また、(8)「洗濯の手伝いをしたこと」では、中学校の年代に「何度もある」と回答した割合を見ると、郷土を愛する心が強いグループ「愛高」では39.3%に対し、郷土を愛する心が低いグループ「愛低」では27.7%と11ポイントの差があった。(10)「家族で季節の行事をしたこと」では、中学校の年代に「何度もある」と回答した割合を見ると、郷土を愛する心が強いグループ「愛高」が51.7%に対し、郷土を愛する心が低いグループ「愛低」では37.2%と14ポイントの差があり、いずれも郷土を愛する心の度合いが高いグループの方が「何度もある」と回答した割合が高くなっていた。なお、これらの結果は、カイ二乗検定の結果、いずれも1%水準で有意であった。

表4 「子どもの頃、家庭での生活体験」(「何度もある」の回答結果のみ)

		n=420	n=306	n=274	検定結果	
		愛高	愛中	愛低		
(1)	家で「おはようございます」「いただきます」「いただきます」「ただいま」「おやすみなさい」といったあいさつをすること	(a) 就学前	58.8%	58.2%	49.6%	
		(b) 小学校	66.2%	64.7%	54.4%	*
		(c) 中学校	57.6%	55.2%	42.0%	**
		(d) 高等学校	52.4%	49.0%	35.0%	***
(2)	自分のふとんの上げ下ろしやベッドを整頓したこと	(a) 就学前	15.0%	16.3%	16.4%	
		(b) 小学校	36.0%	33.7%	31.4%	
		(c) 中学校	64.0%	63.7%	54.7%	
		(d) 高等学校	70.0%	68.6%	60.9%	
(3)	朝、人に起こされなくて自分で起きたこと	(a) 就学前	26.9%	26.5%	28.5%	
		(b) 小学校	45.7%	43.8%	39.1%	
		(c) 中学校	61.2%	61.8%	55.5%	
		(d) 高等学校	67.6%	69.0%	56.9%	*
(4)	夜更かしをして、遅くまで起きていたこと	(a) 就学前	4.5%	2.9%	6.2%	
		(b) 小学校	7.4%	3.9%	8.8%	*
		(c) 中学校	37.4%	32.4%	38.3%	
		(d) 高等学校	63.3%	59.2%	59.5%	
(5)	買い物の手伝いをしたこと	(a) 就学前	16.7%	16.3%	16.4%	
		(b) 小学校	36.0%	34.3%	27.7%	
		(c) 中学校	42.6%	43.5%	32.8%	
		(d) 高等学校	43.1%	42.8%	32.1%	*
(6)	料理(準備や後片付けを含む)の手伝いをしたこと	(a) 就学前	9.0%	9.2%	10.2%	
		(b) 小学校	26.0%	24.2%	21.9%	
		(c) 中学校	41.2%	36.9%	35.4%	
		(d) 高等学校	42.6%	37.9%	36.9%	
(7)	家の中の掃除やごみ出しの手伝いをしたこと	(a) 就学前	5.7%	5.9%	8.4%	
		(b) 小学校	24.5%	19.3%	19.3%	
		(c) 中学校	40.0%	34.3%	31.4%	**
		(d) 高等学校	41.0%	38.6%	32.5%	**
(8)	洗濯(とりこむ・たたむを含む)の手伝いをしたこと	(a) 就学前	5.5%	5.6%	5.5%	
		(b) 小学校	17.6%	17.0%	15.0%	*
		(c) 中学校	39.3%	30.7%	27.7%	***
		(d) 高等学校	41.2%	36.6%	31.8%	**
(9)	家族の誕生日を祝ったこと	(a) 就学前	45.0%	43.5%	32.1%	*
		(b) 小学校	51.4%	46.4%	35.0%	***
		(c) 中学校	44.3%	43.1%	32.1%	***
		(d) 高等学校	40.0%	39.9%	27.0%	***
(10)	家族で季節の行事(クリスマス、節分等)をしたこと	(a) 就学前	56.2%	55.9%	46.7%	*
		(b) 小学校	61.9%	58.5%	48.5%	**
		(c) 中学校	51.7%	53.6%	37.2%	***
		(d) 高等学校	45.0%	46.4%	32.5%	***
(11)	家族で旅行に行ったこと	(a) 就学前	20.5%	21.9%	17.5%	
		(b) 小学校	22.6%	22.2%	19.7%	
		(c) 中学校	12.1%	12.7%	9.5%	
		(d) 高等学校	7.6%	8.2%	5.5%	
(12)	家族でスポーツしたり自然の中で遊んだりしたこと	(a) 就学前	29.8%	30.7%	19.3%	**
		(b) 小学校	31.0%	28.4%	18.2%	***
		(c) 中学校	15.5%	15.0%	11.3%	**
		(d) 高等学校	10.2%	10.1%	6.9%	
(13)	家族で地域の祭りに参加したこと	(a) 就学前	33.1%	33.3%	24.8%	*
		(b) 小学校	40.5%	34.6%	25.5%	***
		(c) 中学校	19.5%	20.9%	15.7%	**
		(d) 高等学校	13.6%	14.1%	10.6%	**
(14)	家族で町内会のゴミ拾いに参加したこと	(a) 就学前	5.0%	7.5%	5.1%	
		(b) 小学校	8.6%	8.8%	7.7%	
		(c) 中学校	4.5%	6.9%	5.8%	
		(d) 高等学校	3.1%	3.6%	4.0%	

注) カイ二乗検定結果 (***: p<0.001, **: p<0.01, *: p<0.05)

表5

「子どもの頃、感じたこと」(「何度もある」の回答結果のみ)

	n=420 n=306 n=274			検定結果
	愛高	愛中	愛低	
(1) 家族と一緒にいることが楽しいと感じたこと	61.4%	55.2%	38.7%	***
(2) 家族の一員として役に立っていると感じたこと	43.6%	39.5%	21.5%	***
(3) 家族からの愛情を感じたこと	69.8%	58.5%	46.0%	***

注)カイ二乗検定結果(***:p<0.001, **:p<0.01, *:p<0.05)

子どもの頃に「家族と一緒にいることが楽しいと感じたこと」と「家族からの愛情を感じたこと」が「何度もある」と回答した結果(表5)を見ると、郷土を愛する心の度合いが高いグループと低いグループでは、いずれの項目も20ポイント以上の差があった。また、カイ二乗検定の結果、いずれも項目も1%水準で有意であった。このことから、子どもの頃に愛情を感じる経験が多いことが郷土を愛する心に大きく影響すると推察できる。

表6 「子どもの頃、放課後や休日にしたこと」(「何度もある」の回答結果のみ)

		n=420 n=306 n=274			検定結果
		愛高	愛中	愛低	
(1) 公園や広場で友だちと外遊びをしたこと	(a) 小学校	75.5%	67.6%	55.1%	***
	(b) 中学校	21.2%	20.6%	15.7%	**
	(c) 高等学校	8.1%	7.5%	8.0%	
(2) 友達の家や自宅で友だちと室内遊びをしたこと	(a) 小学校	25.5%	22.2%	14.6%	***
	(b) 中学校	9.3%	8.5%	8.8%	*
	(c) 高等学校	6.7%	6.5%	9.1%	
(3) 一人でテレビを見たり、テレビゲームをして遊んだこと	(a) 小学校	12.6%	16.7%	21.2%	*
	(b) 中学校	16.0%	19.3%	22.3%	
	(c) 高等学校	20.2%	19.3%	18.6%	
(4) 学習塾で勉強したこと	(a) 小学校	1.0%	2.9%	3.3%	*
	(b) 中学校	1.4%	2.3%	5.5%	*
	(c) 高等学校	1.2%	2.0%	3.3%	
(5) 学校外のスポーツクラブや少年団(野球、水泳、剣道等)で活動したこと	(a) 小学校	10.5%	9.8%	10.6%	
	(b) 中学校	13.3%	11.4%	8.4%	**
	(c) 高等学校	9.8%	10.1%	3.6%	**
(6) 学校外の文科系の習い事(音楽、書道、茶道等)に通ったこと	(a) 小学校	6.0%	4.9%	6.6%	
	(b) 中学校	2.6%	3.3%	3.3%	
	(c) 高等学校	1.9%	2.3%	2.2%	
(7) 学校の運動系部活動で活動したこと	(a) 小学校	25.7%	28.8%	24.8%	
	(b) 中学校	51.9%	51.0%	44.5%	
	(c) 高等学校	31.7%	34.0%	22.3%	*
(8) 学校の文化系部活動で活動したこと	(a) 小学校	6.2%	5.6%	5.8%	
	(b) 中学校	13.3%	11.4%	6.6%	*
	(c) 高等学校	14.3%	11.1%	9.5%	
(9) 子ども会で活動したこと	(a) 小学校	5.7%	8.5%	7.7%	
	(b) 中学校	1.9%	2.3%	4.4%	
	(c) 高等学校	1.0%	0.3%	2.6%	*

注)カイ二乗検定結果(***:p<0.001, **:p<0.01, *:p<0.05)

子どもの頃、放課後や休日にしたことの集計結果(表6)を見ると、「公園や友だちと外遊びをしたこと」では、小学校の頃に「何度もある」と回答した割合が、郷土を愛する心の度合いが高いグループでは75.5%に対し、郷土を愛する心の度合いが低いグループでは55.1%と20ポイントの差があった。外遊びの経験が郷土を愛する心に大きく影響すると推察できる。

イ 人間関係について

郷土を愛する心の度合いが高いほど、「困ったときに相談に乗ってくれる人」や「個人的な悩みを話せる人」は、2人から5人が最も多く、交友関係が広い。

問2（p10参照）では、家族や親戚を含めて、相談や遊ぶ相手がどの程度いるか尋ねている。郷土を愛する心の度合い別にクロス集計した結果（表7）を見ると、郷土を愛する心の度合いが高いグループと低いグループとで大きな差があった。特に、「困ったときに相談に乗ってくれる人」の人数では、「二人から五人」の割合が多く、郷土を愛する心の度合いが高いグループは72.1%に対し、低いグループでは60.9%と11ポイントの差があった。「個人的な悩みを話せる人」でも「二人から五人」の割合が多く、郷土を愛する心の度合いが高いグループは69.3%に対し、低いグループでは51.5%と18ポイントの差があった。「地元で一緒に遊ぶ人」や「地元以外で一緒に遊ぶ人」でも「二人から五人」の割合が高く、郷土を愛する心の度合いが高いグループと低いグループとでは10ポイントの差があった。

上記の結果については、カイ二乗検定の結果、いずれも1%水準で有意である。

このことから、郷土を愛する心の度合いが高い県民は、交友関係が広いことが推察できる。

表7 「家族や親戚を含めた人間関係について」

		n=420	n=306	n=274	検定結果
		愛高	愛中	愛低	
(1) 困ったときに相談に乗ってくれる人	5.いない	2.4%	4.2%	12.0%	***
	4.一人	10.5%	11.1%	21.9%	
	3.二人から五人	72.1%	78.1%	60.9%	
	2.六人から十人	9.0%	5.6%	4.0%	
	1.十一人以上	5.0%	0.7%	0.4%	
(2) 個人的な悩みを話せる人	5.いない	6.0%	8.8%	18.2%	***
	4.一人	17.4%	18.6%	27.7%	
	3.二人から五人	69.3%	68.3%	51.5%	
	2.六人から十人	5.5%	3.6%	1.5%	
	1.十一人以上	1.0%	0.3%	0.4%	
(3) 同じ目標を目指して一緒に何かしている人	5.いない	38.3%	40.2%	56.2%	***
	4.一人	13.6%	15.4%	13.9%	
	3.二人から五人	31.2%	33.0%	25.2%	
	2.六人から十人	7.4%	6.2%	2.2%	
	1.十一人以上	8.3%	3.9%	1.5%	
(4) 地元で一緒に遊ぶ人	5.いない	17.4%	19.3%	33.6%	***
	4.一人	7.1%	7.2%	13.9%	
	3.二人から五人	53.8%	59.2%	42.7%	
	2.六人から十人	14.0%	10.8%	6.9%	
	1.十一人以上	6.7%	3.3%	2.6%	
(5) 地元以外で一緒に遊ぶ人	5.いない	28.3%	35.0%	47.8%	***
	4.一人	12.4%	10.1%	6.9%	
	3.二人から五人	45.0%	46.4%	34.7%	
	2.六人から十人	9.0%	4.9%	6.6%	
	1.十一人以上	4.0%	2.0%	2.9%	
(6) 何かについて、自分に頼ってくれる人	5.いない	11.9%	13.4%	29.9%	***
	4.一人	10.2%	13.4%	15.3%	
	3.二人から五人	64.0%	64.1%	48.9%	
	2.六人から十人	7.6%	5.9%	3.6%	
	1.十一人以上	4.0%	1.3%	1.5%	
(7) 特に親しくは無いが、一緒に仕事や活動をする人	5.いない	18.1%	14.1%	25.9%	***
	4.一人	3.1%	5.6%	7.7%	
	3.二人から五人	31.2%	32.7%	36.9%	
	2.六人から十人	16.4%	21.6%	9.1%	
	1.十一人以上	30.2%	25.8%	20.1%	

注)カイ二乗検定結果(***: p<0.001, **: p<0.01, *: p<0.05)

自分自身との家族の関わり（p13参照）について、郷土を愛する心の度合い別にクロス集計した結果（表8）を見ると、すべての項目において、「非常に思う」と「やや思う」を合わせた割合が、郷土を愛する心の度合いが低い県民よりも郷土を愛する心の度合いが高い県民の方が高い傾向が見られた。特に、「自分は、家族から信頼されている」では、郷土を愛する心の度合いが高いグループが85.5%に対し、低いグループでは57.7%と27ポイントの差があった。また、「家族の重要な一員だと思ふ」では、郷土を愛する心の度合いが高いグループが89.5%に対し、低いグループでは66.4%と23ポイントの差があった。「家族を信頼している」では、度合いが高いグループが91.4%に対し、低いグループでは74.8%と16ポイントの差があった。「家族からほめられることがある」では、郷土を愛する心の度合いが高いグループが69.0%に対し、郷土を愛する心の低いグループでは47.4%と21ポイントの差があった。

なお、カイ二乗検定の結果、全ての項目が1%水準で有意である。

表8 「自分自身と家族の関わりについて」(「非常に思う」+「やや思う」)の回答結果)

	n=420 n=306 n=274			検定結果
	愛高	愛中	愛低	
(1) 自分は、家族の役に立っている	89.5%	83.3%	65.7%	***
(2) 自分は、家族から信頼されている	85.5%	79.7%	57.7%	***
(3) 自分は、家族から頼りにされることがある	88.6%	83.0%	69.0%	***
(4) 自分は、家族の重要な一員だと思ふ	89.5%	81.0%	66.4%	***
(5) 自分は、家族と一緒にいると安心できる	88.6%	83.3%	68.6%	***
(6) 自分は、家族を信頼している	91.4%	82.7%	74.8%	***
(7) 自分は、家族に支えられている	90.5%	87.9%	74.5%	***
(8) 自分は、家族から「ありがとう」と言われることがある	83.1%	77.8%	60.9%	***
(9) 自分は、家族からほめられることがある	69.0%	65.4%	47.4%	***
(10) 自分は、家族の手伝いをする事ができる	90.0%	84.0%	73.7%	***
(11) 自分は、家族が納得するような意見を言うことができる	76.7%	69.6%	52.2%	***

注)カイ二乗検定結果(***:p<0.001, **:p<0.01, *:p<0.05)

自分自身との周囲の人との関わり（p15参照）について、郷土を愛する心の度合い別にクロス集計した結果（表9）を見ると、「非常に思う」と「やや思う」を合わせた割合が、すべての項目において、郷土を愛する心の度合いが低い県民よりも度合いが高い県民の方が高い傾向が見られた。特に、「自分は、周囲の人から信頼されている」では、郷土を愛する心の度合いが高いグループが54.5%に対し、低いグループでは34.7%と20ポイントの差があった。また、「周囲の人から重要な一員だと思われる」では、郷土を愛する心の度合いが高いグループが46.4%に対し、低いグループでは27.7%と18ポイントの差があった。「周囲の人を信頼している」では、郷土を愛する心の度合いが高いグループが63.8%に対し、低いグループでは35.0%と28ポイントの差があった。「周囲の人からほめられることがある」では、郷土を愛する心の度合いが高いグループが55.5%に対し、低いグループでは35.4%と20ポイントの差があった。

なお、カイ二乗検定の結果、全ての項目が1%水準で有意である。

表9 「自分自身と周囲の人との関わりについて」(「非常に思う」+「やや思う」)の回答結果)

	n=420 n=306 n=274			検定結果
	愛高	愛中	愛低	
(1) 自分は、周囲の人の役に立っている	60.2%	57.2%	38.0%	***
(2) 自分は、周囲の人から信頼されている	54.5%	48.7%	34.7%	***
(3) 自分は、周囲の人から頼りにされることがある	61.4%	56.2%	38.0%	***
(4) 自分は、周囲の人から重要な一員だと思われる	46.4%	36.9%	27.7%	***
(5) 自分は、周囲の人と一緒にいると安心できる	50.7%	40.8%	28.5%	***
(6) 自分は、周囲の人を信頼している	63.8%	47.4%	35.0%	***
(7) 自分は、周囲の人に支えられている	73.3%	65.7%	51.1%	***
(8) 自分は、周囲の人から「ありがとう」と言われることがある	71.0%	63.4%	44.9%	***
(9) 自分は、周囲の人からほめられることがある	55.5%	49.7%	35.4%	***
(10) 自分は、周囲の人の手伝いをする事ができる	71.7%	66.3%	49.6%	***
(11) 自分は、周囲の人が納得するような意見を言うことができる	48.1%	44.4%	31.4%	***

注)カイ二乗検定結果(***:p<0.001, **:p<0.01, *:p<0.05)

ウ 地域との関わりについて

郷土を愛する心の度合いが高い県民ほど、「地域は住みやすい」、「地域が好きだ」、「地域にずっと住み続けたい」、「地域は大切だと思う」と思っている。

問6 (p17参照)では、自分自身と地域との関わりについて尋ねている。設問については、東京理科大学 伊藤香織准教授が考案した『シビックプライド尺度』を引用した。郷土を愛する心の度合い別にクロス集計した結果(表10)を見ると、「地域社会の一員としての責任を真剣に考えている」では、郷土を愛する心の度合いが高いグループが52.4%に対し、郷土を愛する心の度合いが低いグループでは24.5%と27ポイントの差があった。また、「地域にいつまでも変わってほしくないものがある」や「地域になくなってしまうと悲しいものがある」では、郷土を愛する心の度合いが高いグループと低いグループとでは、どちらも40ポイント以上の差があった。なお、カイ二乗検定の結果、全ての項目において1%水準で有意である。

表 10 「自分自身と地域との関わりについて」(「非常に思う」+「やや思う」の回答結果)

	n=420 n=306 n=274			検定結果
	愛高	愛中	愛低	
(1) 地域社会の一員としての責任を真剣に考えている	52.4%	40.2%	24.5%	***
(2) 自分のような人間が地域社会で重要な役割を果たすと思う	24.8%	16.3%	11.3%	***
(3) 地域社会を良い場所にするための自分なりの貢献ができていない	37.6%	35.0%	35.0%	**
(4) 自分は地域社会に変化を起こすことができると思う	10.7%	7.5%	6.9%	***
(5) 人生の大部分が地域に結びついている	40.5%	22.9%	12.8%	***
(6) 「(市町村名)の人」という言葉は、自分がどういう人物かをよく説明することばである	23.8%	17.6%	13.5%	**
(7) 「(地区名)の人」という言葉は、自分がどういう人物かをよく説明することばである	33.6%	21.6%	15.7%	***
(8) (市町村名)民であることは自分にとって重要なことである	39.3%	19.3%	10.6%	***
(9) この地域は、他のほとんどの地域より良い場所である	56.7%	32.4%	16.8%	***
(10) 地域を批判している人がいたら、地域を擁護する	56.0%	33.7%	15.3%	***
(11) 家族や友人に地域の産品や製品を使うよう勧める	49.8%	26.1%	16.8%	***
(12) 地域のスポーツチームを積極的に応援する(プロ、アマチュア、学校など)	53.3%	33.7%	24.8%	***
(13) 地域は住みやすいと思う	77.6%	51.3%	33.2%	***
(14) 地域が好きだ	85.2%	55.6%	27.4%	***
(15) 地域の雰囲気や土地柄が気に入っている	77.1%	50.0%	24.5%	***
(16) 地域に自分の居場所はない	2.9%	6.5%	8.4%	***
(17) 地域にずっと住み続けたい	72.6%	44.4%	23.7%	***
(18) 地域は大切だと思う	90.5%	66.3%	44.9%	***
(19) 地域にいつまでも変わってほしくないものがある	72.1%	43.8%	25.9%	***
(20) 地域になくなってしまうと悲しいものがある	75.5%	51.3%	28.1%	***

注)カイ二乗検定結果(***:p<0.001, **:p<0.01, *:p<0.05)

エ 郷土を愛する心の度合いと青森県との関わりについて

郷土を愛する心の度合いが高い県民ほど、「青森県の将来のことが、とても気になる」、「青森県に愛着を感じている」と思っている。

問8 (p22参照)では、自分自身と青森県との関わりについて尋ねている。郷土を愛する心の度合い別にクロス集計した結果(表11)を見ると、「青森県に愛着を感じる」では、郷土を愛する心の度合いが高いグループが91.2%に対し、郷土を愛する心の度合いが低いグループでは24.1%と67ポイントの差があった。なお、カイ二乗検定の結果、全ての項目が1%水準で有意である。

表 11 「自分自身と青森県との関係について」(「非常に思う」+「やや思う」の回答結果)

	n=420 n=306 n=274			検定結果
	愛高	愛中	愛低	
(1) 私は青森県に必要な人材であると感じる	26.7%	11.8%	6.2%	***
(2) 私は青森県の将来のことが、とても気になる	70.2%	47.4%	26.3%	***
(3) 私は青森県に愛着を感じる	91.2%	61.8%	24.1%	***
(4) 青森県を離れることは、たとえ離れたくても、大変困難であると感じる	56.9%	36.3%	31.8%	***
(5) 私が青森県にいるのは、そうしたいからと同時に必要と感じているからである	56.4%	26.8%	11.3%	***

注)カイ二乗検定結果(***:p<0.001, **:p<0.01, *:p<0.05)

オ 郷土に対する理解について

郷土を愛する心の度合いが高い県民ほど、「郷土の文化」や「郷土の歴史」、「郷土の産業」を深く理解し、地域住民とのつながりを深めている。

問10(p23参照)では、郷土についてどの程度考えているか尋ねている。郷土を愛する心の度合い別にクロス集計した結果(表12)を見ると、『「郷土の文化」や「郷土の歴史」、「郷土の産業」を深く理解している』について、郷土を愛する心の度合いが低いグループより、それぞれ20ポイント以上、度合いが高いグループの方が深く理解していると回答した割合が高い。なお、カイ二乗検定の結果、全ての項目が1%水準で有意である。

表 12 「郷土に対する理解について」(「非常に思う」+「やや思う」の回答結果)

	n=420 n=306 n=274			検定結果
	愛高	愛中	愛低	
(1) 私は郷土の文化を深く理解している	49.0%	26.8%	10.6%	***
(2) 私は郷土の歴史を深く理解している	36.0%	18.0%	8.4%	***
(3) 私は郷土の産業を深く理解している	36.2%	20.3%	8.0%	***
(4) 私は郷土の自然を守る活動をしている	15.5%	5.9%	2.9%	***
(5) 私は郷土の芸能を継承している	16.2%	5.6%	3.6%	***
(6) 私は地域住民とのつながりを深めている	34.3%	16.0%	7.3%	***
(7) 私は郷土の課題について理解している	28.3%	17.3%	5.8%	***
(8) 私は郷土の課題解決のため行動している	10.5%	4.6%	2.2%	***
(9) 私は国内外に郷土の魅力を発信している	14.3%	6.9%	2.9%	***

注)カイ二乗検定結果(***:p<0.001, **:p<0.01, *:p<0.05)

カ 現在の意識や考え方について

郷土を愛する心の度合いが高い県民ほど、自己肯定感が高く、コミュニケーション力があり、何事にも前向きに取り組むことができる。

問11(p25参照)では、自分自身の現在の意識や考え方について尋ねている。郷土を愛する心の度合い別にクロス集計した結果(表13)を見ると、「非常に思う」と「やや思う」を合わせた割合が、すべての項目において、郷土を愛する心の度合いが高いグループと低いグループとの間に8ポイント以上の差があった。

なお、カイ二乗検定の結果、すべての項目が1%水準で有意である。

表 13 「自分自身の現在の意識や考え方について」(「非常に思う」+「やや思う」の回答結果)

	n=420 n=306 n=274			検定結果
	愛高	愛中	愛低	
(1) 何事も前向きに取り組むことができる	79.3%	71.9%	57.7%	***
(2) どんなに難しいことでも、努力をすれば自分の力でやり遂げられる	74.0%	72.9%	56.2%	***
(3) 厳しく叱られてもくじけない	61.2%	59.2%	46.0%	***
(4) 失敗してもあきらめずにもう一度挑戦することができる	74.5%	70.9%	56.2%	***
(5) ひどく落ち込んだときでも、時間を置けば元気にふるまえる	86.4%	84.3%	70.1%	***
(6) 分からないことはそのままにしないで調べる	82.4%	79.7%	69.7%	***
(7) いつも新しいことに挑戦している	46.2%	39.9%	36.1%	***
(8) 人任せにせず何でも自分でやっている	76.2%	74.5%	64.6%	***
(9) 人がやりたがらないことは自分から進んでやるようにしている	60.2%	57.2%	47.1%	***
(10) 常に目標を持って行動している	54.5%	49.7%	36.5%	***
(11) 自分の意見や考えを言葉でうまく表現できる	51.2%	46.4%	36.5%	***
(12) 自分の気持ちを表情やしぐさでうまく表現できる	56.0%	50.0%	39.8%	***
(13) 初めて会った人とでもすくに話ができる	59.3%	55.9%	44.9%	***
(14) 人の気持ちや微妙な表情の変化を読み取れる	77.9%	74.5%	60.2%	***
(15) 相手の立場に立って物事を考えられる	85.5%	79.7%	67.2%	***
(16) 今の自分が好きだ	66.0%	54.6%	38.0%	***
(17) 体力には自信がある	46.2%	44.1%	38.0%	***
(18) 人よりも仕事や勉強ができる方だ	41.4%	39.5%	25.9%	***
(19) 自分には自分らしさがある	85.2%	73.5%	53.6%	***
(20) 友だちは多い方だ	46.2%	41.2%	29.9%	***

注)カイ二乗検定結果(***:p<0.001, **:p<0.01, *:p<0.05)